

HANDS 【ハンズネクスト】 next

とちぎ多文化共生教育通信

News Letter
"HANDS next"

vol

3

発行：「宇都宮大学 HANDS プロジェクト」研究チーム

※『HANDSnext』は2007年より発行された宇都宮大学特定重点推進研究グループ通信『HANDS』をリニューアルしたものです。

特集

外国人児童生徒教育支援学生ボランティアの派遣

教育学部スクールサポートセンターコーディネーター 辻 猛 司

宇都宮大学HANDSプロジェクトは、地域貢献面での事業のひとつとしてこれまで準備していた「外国人児童生徒が在籍する小中学校への学生ボランティア派遣」をこの10月からスタートしました。

11月5日現在で、学生の登録者数は22名（教育学部9名、国際学部13名）で、小中学校からの派遣依頼数は4件（小学校3件、中学校1件）です。

この事業は、教育学部スクールサポートセンターが中心となって進めています。事業開始にあたって、学外においては、県内の各市町教育委員会に協力依頼の文書を発信して理解を得ることに努めるとともに管内小中学校に事業案内の配布を依頼して派遣申請を募り、学内においては、掲示板に案内文を掲示するとともに、ボランティア募集説明会（10／8）、事前研修会（10／15）を開催して学生に周知を図りました。

学生向けの募集説明会等では、国際学部の若林特任准教授から、県内の外国人児童生徒の居住状況や日本語指導の必要状況などの現状、県内小中学校が抱えている外国人児童生徒教育の実際とそこで浮かび上がる問題点、ボランティアとして期待されていることやボランティアによる自分の成長などの話がありました。説明会や研修会での各20数名の参加者は熱心に耳を傾けていました。

事業の概要は、次ページのとおりです。このチラ

シは、各市町教育委員会に学生ボランティア派遣事業の理解と協力を求めるために送ったもので、ここに改めて掲載し、さらに小中学校への周知を図りたいと思います。

この取り組みによって、外国人の子どもたちが安心して学校生活を過ごすことができ、彼らが日本で生きていくことを手助けし、小中学校において、異なる文化を背景に持つ子どもたちが共生する環境を整え、併せて外国人児童生徒教育に取り組んでいる学校を支援できることなどを期待しています。

現在4件の依頼については、既に派遣しているか、或いはほぼ派遣が決まっています。このうち、活動中の宇都宮市立東小学校の実際について、3ページ目に、学生および学校の感想を載せましたのでお読みください。



宇都宮大学HANDSプロジェクトは 学校や教育委員会の外国人児童生徒 教育を応援します



外国人児童生徒教育支援 学生ボランティア派遣事業

どんな支援 活動ですか？

日本語指導や適応指導のお手伝い、学習に必要な支援、指導教材作成の補助、共遊による人間関係づくりの補助、保護者通知文の翻訳作成の補助、国際交流活動のお手伝いなどの活動を行います。

どこで活動 しますか？

県内の小・中学校や教育委員会の附属施設を対象に派遣します。

だれを派遣 していますか？

外国人児童生徒教育やグローバル教育に関心のある大学生を派遣します（必ずしも外国語での対応ができるとは限りません）。

どのように 依頼するの ですか？

宇都宮大学スクールサポートセンター（SSC）宛に「学生ボランティアの派遣依頼について」をファックスで随時、送付してください（028-649-5274にお尋ねください）。SSCでは、これをもとに募集案内を作り、学内に掲示してボランティア学生を募ります。

SSCからの お願いです。

ボランティア活動を行う前に、研修を受けさせて派遣します。
予備知識を持たせ、安心して支援活動ができるようにしたいと思っています。また、できるだけご要望に添いたいと思いますが、応募がない場合など、お待ちいただく場合や応えられない場合もあります。ご了承下さい。ふさわしい人材を派遣するよう心がけたいと思いますが、ボランティア学生を温かい目で迎えてください。

宇都宮大学HANDS(ハンズ)プロジェクト

宇都宮大学の国際・教育両学部が連携して推進する文部科学省特別経費プロジェクト「グローバル化社会に対応する人材養成と地域貢献—多文化共生社会実現に向けた外国人児童生徒教育・グローバル教育の推進—」の通称です。

支援活動を始めて

大学院教育学研究科1年 黄 佳蓓

私は、中国からの私費留学生です。今年の4月、宇都宮大学大学院教育学研究科に入学し、修士課程の学生として研究しております。日本に来てから、いろいろなボランティア活動をしてきましたが、今回、宇都宮大学HANDSプロジェクトで宇都宮市立東小学校4年生のA君（中国から移住）の学習支援を始めました。

週2回ほど、授業での聞き取りを援助したり、遊びや学校のルールを教えたりしながら、A君が、日本で安心して生きていくために、日本の文化や周りの日本人の考え方を受け入れられるように、そして学校で友達をつくることができるように支援しています。

ボランティア活動を始めてひと月、私は初めて「先生」と呼ばれ、心が温かくなり、涙が出るほど感動しました。笑ったり泣いたりしている、そんな素直な子供たちに囲まれて、私自身も心が洗われ、硬さもほどけ素直な気持ちになり、そういう自分を好きになりました。

A君への支援をきっかけに、自分自身の知識も意識も深くなってきたように思います。日本の小学校の運営や行事、ルールなどだけでなく、人権尊重や発達障害と人格形成などの分野にも目を向けるようになりました。

外国人としての私も孤独感や苦しみを味わいましたが、A君も同じことを感じているのではないかと思います。それをわかってあげたり共感したりして、一緒に乗り越えられるよう勇気づけてあげたいです。これからも外国人児童生徒支援のために全力を尽くしたいと思います。

学生ボランティアを受け入れて

宇都宮市立東小学校教務主任 村岡 裕之

黄佳蓓さんには、4年生の男児の支援をしていただいています。男児は、4月に来日するまで日本語や日本の生活習慣等に触れたことが全くなく、学校生活の上でさまざまな支障をきたしていました。

黄さんは、朝の会から教室に行きます。椅子は男児の席の隣にあります。教室では、担任の言葉をわかりやすく伝えたり、発表を促したり、考えるヒントを出したりするなどの支援をしています。休み時間も子どもたちと一緒に過ごし、遊びのルールなどを教えています。給食の時間も男児のグループに入り、会話の橋渡しをしたり、食事のマナーを教えたりしています。

黄さんの支援を受ける前は、男児は日本語ができないために学習面で十分に力を発揮できなかったり、時折意欲を失ったりするようなことがありました。また、友達とのコミュニケーションがうまくとれず、トラブルになったこともありました。

支援を受けるようになってからは、学習面での意欲も見られるようになり、友達との関係も良好になっています。何よりも男児の気持ちに寄り添い、よくできた時は共に喜び、悪いことをした時には厳しく叱る姿勢がとても素晴らしいです。学校としても黄さんに来ていただいて本当に感謝しています。

第2回 外国人児童生徒・グローバル教育推進協議会報告



国際学部教授 田 巻 松 雄

第2回の「外国人児童生徒・グローバル教育推進協議会」（以下、協議会と略）を10月22日（金）に開

催しました。改めて述べておきますと、この協議会は、栃木県教育委員会の外国人児童生徒教育担当